

新収蔵品展

2025年

3月1日(土)

▶ 6月29日(日)

旭川ゆかりの彫刻家たち



関秋宏《北の青年》2010年

佐藤範夫《おさげ》1987年

中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館
(北海道旭川市春光5条7丁目)

開館時間 9:00~17:00
(入館は16:30まで)

休館日 毎週月曜日(5月5日は開館), 5月7日(水)

観覧料 一般450円/高校生300円/中学以下無料

(料金には常設展観覧料を含む。各種減免規定あり。)

主催 中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館

☎0166-46-6277

<http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/sculpture>



新収蔵品展

一旭川ゆかりの彫刻家たち

旭川市彫刻美術館では、中原悌二郎作品を始め、荻原守衛や石井鶴三、堀進二など悌二郎に関連する作家の作品、旭川市が昭和45年に創設した「中原悌二郎賞」の受賞者の作品、地域ゆかりの彫刻家の作品、旭川彫刻フェスタ実行委員会が主催する「旭川彫刻フェスタ」で制作された作品などを収集・所蔵しています。

本展では令和5年度及び6年度に寄贈を受けた、旭川で活躍した2人の彫刻家、関秋宏（せきあきひろ）3点及び佐藤範夫（さとうのりお）4点の新収蔵作品を紹介します。

また、旭川にゆかりの深い2人の彫刻家にちなみ、当館で所蔵する旭川ゆかりの彫刻家の作品を併せて展示いたします。



関秋宏《北の娘》



関秋宏《北の娘（学生）》



佐藤範夫《K子》



佐藤範夫《座像》

『彫刻のまち』と呼ばれる旭川は、中原悌二郎をはじめ、多くの著名な彫刻家を輩出しています。

新田実旭川市の野外彫刻第1号となった《青年像》（旭川市役所前）の作者で、旭川市文化賞や小熊秀雄賞の記念像・レリーフを手掛けるなど、旭川市との繋がりも深い彫刻家の一人です。

加藤顕清は中原悌二郎作品を旭川にもたらすことに尽力した一人で、現在も7条緑道などに野外彫刻が設置されるなど、『彫刻のまち』旭川には欠かせない人物として知られています。

田村審火、藤川叢三、北村善平、砂澤ビッキ、善本秀作、佐藤範夫らは旭川出身の彫刻家で、それぞれが個性のある作品を数多く残しています。

板津邦夫、神田比呂子、関秋宏らは旭川市で教鞭を執るなど、地域で活躍しながら彫刻の制作活動を続け、多くの作品を残しました。

地域のみなさまに支えられて令和6年6月1日に開館30周年を迎えた旭川市彫刻美術館選りすぐりの「旭川コレクション」をご覧ください。



新田実《青年立像》



加藤顕清《トルソ・女》

常設展 本館2階

中原悌二郎と中原賞の作家たち

近代彫刻の父・ロダンの登場によりフランスで始まった、生命感あふれる新しい彫刻のあり方に対する探求は、日本彫刻界にも多大な影響を与えることになりました。この日本近代彫刻の黎明期に活躍し、現代へと続く日本彫刻史の本道をつくり上げたのが、旭川市ゆかりの彫刻家・中原悌二郎（1888-1921）でした。

中原悌二郎の偉業を顕彰し、併せて日本彫刻界の発展に寄与するため、旭川市1970年に創設した中原悌二郎賞は、2024年までに43回の贈呈を数え、延べ90名に上る受賞者は、いずれも現代日本を代表する彫刻家です。

常設展「中原悌二郎と中原賞の作家たち」では、近代から現代へと至る日本彫刻界の流れをご覧ください。

■展示作家

オーギュスト・ロダン、荻原守衛、中原悌二郎、木内克、柳原義達、佐藤忠良、舟越保武、桜井祐一、清水九兵衛、朝倉響子、吾妻兼治郎、掛井五郎、澄川喜一、福岡道雄、植松奎二、笹戸千津子、青木野枝、小泉俊己、中谷ミチコ（ほか）

■企画展観覧料で常設展も併せてご覧いただくことができます。

アクセス



■バスをご利用の場合

旭川電気軌道バス（所要時間約25分）
旭川駅前バスタッチ4番のりばから
春光バスセンター行（5番・80番・522番）
※いずれも「春光園前」下車

■お車をご利用の場合

旭川駅前から約20分
道央自動車道 旭川鷹栖ICから約10分
※無料駐車場有り（7台分）

■タクシーをご利用の場合

旭川駅前から2,110円程度

分館にて開催

「おかえり」彫刻巡回展示の作品たち展

- 会期 2025年3月7日（金）～6月1日（日）
- 会場 中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館ステーションギャラリー（北海道旭川市宮下通8丁目3-1 JR旭川駅東口）
- 時間 午前10時30分～午後18時30分（入館は午後18時15分まで）
- 休館日 毎週月曜日（5月5日は開館）、5月7日（水）
- 観覧料 無料
- 主催 中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館